

七月例会御案内

(平成二十二年)

時代を刷新する会

○ 御案内

七月七日(水) 正午〜二時半 衆議院第一議員会館一階 第三会議室 (第二九一回)

講 題 頑張れ! 日本の製造業! — 中韓印泰越を乗り越える経営 —

講 師 橋本久義先生(政策研究大学院大学教授、元通商産業省総括研究開発官)

日本は、「失われた二〇年」と言われるように、平成二年のバブル崩壊後、経済は低迷を続け、本年度予算も税収三十六兆円に対し、支出が九十二兆円、その内、国債発行四十四兆円という収支不均衡予算で、累積財政赤字も九〇〇兆円に近く、国民一人当たり七〇〇万円もの借金を負っている計算です。

この日本の経済・財政危機をどうして脱するか、それが、いま、参院議員選挙でも、各党それぞれが論点にしているところですが、それも、多くは消費税増税の是非に集約されている感があります。しかし、橋本久義先生は、これを解決する根本は、日本の製造業の活性化、税収の増加にあると提言しておられますので、御解説をいただきます。奮っての御参加を!

(清原記)

◎ 当日の会費 三千円(昼食は、議員会館の都合上、各自、事前にお済ませ下さい)

□ 御報告

去る六月十日の月例会は、神津康雄当団休理事に「医療と教育の迫間(はざま)に生きて!」と題し、講話をいただきました。それは、神津理事が、戦前・戦中・戦後にわたって、真摯に全力で活動してこられたその生き方には大いに学ぶべきものがある、と考えたからであります。お話の要旨は、父上が島崎藤村を公私ともに支援したことで知られる長野県佐久地方の名家神津家に生まれ、長じて東北帝国大学に進学、その医学部を卒業されたものの、戦時中とて、海軍軍医学校を経て海軍軍医。戦局厳しくなると海軍特別航空隊基地に赴任。零戦も不足して

来た海軍はフロート付の水上機を特攻機に仕立て、訓練を繰り返したが、中には急降下して、急上昇に失敗し海面に激突すると、海面はコンクリートと同じで、御遺体が飛行服の中で粉々となってしまふのを何度も検死した、と涙ながらに話されました。戦後、神津先生は、病院勤務を経て都内に診療所を開設。東京都医師会理事を経て日本医師会常務理事を勤められ、現在も、日本病院管理教育協会理事長。また、医師の傍ら、校歌・寮歌に親しむ教育健全化を志し、長らく「日本寮歌祭会長」を務めてこられた一代記で、そこには、若くして亡くなった特攻隊員たちの志を伝え継ごう、この日本を良くして行こうという精神が溢れ、感動いたしました。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、昨年七月、九十歳を機に辞任され、現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽ お知り合いで、こうした志のある方をお誘い下さい。(年会費は一口一万円)

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

七月七日(水) 正午〜二時半 出 欠

★(いづれかに〇印) — 昼食は、議員会館の都合上、各自、事前に、お済ませ下さい